

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-



発行元
佐野市教育センター
佐野市上羽田町 1134 番地 1
電話 20-3108
20-3048(相談専用)

令和 3 年 2 月末に 1 人 1 台端末が整備されて 2 年が経とうとしています。各学校において、端末を活用した授業や活動が日常的に行われつつあり、児童生徒の端末活用のスキルも向上している様子がうかがえます。先生方の日々の指導の成果が着実に表れていることを感じています。

さて、今回の GIGA 通信では、今年度から学校 DX 研究推進校として、連携して研究を進めてくださっている田沼小学校とあそ野学園義務教育学校での実践をご紹介します。

『遠隔授業で他校の友達と交流～5年生外国語での実践例～』

(田沼小・あそ野学園義務教育学校)

両校の 5 年生が外国語の時間に、Meet を利用して交流授業を行いました。

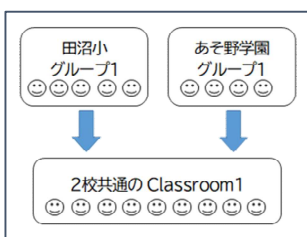
当日の授業の流れは次のようでした。

1. めあての確認と活動の説明
2. 英語の歌を一緒に歌う。【電子黒板】
3. 「What ○○ do you like?」、「I like ○○.」の表現を使って英語でやりとりをする。
【1 人 1 台端末】
4. まとめと振り返り【電子黒板】



◇グループごとに Classroom を作成し、Meet を使って交流する。

各校で 4～5 人のグループを 8 つ作り、2 校共通の 8 つの Classroom に、グループごとに登録しておきます。交流当日、児童が登録されている



Classroom を開き、「参加する」をクリックすれば、交流の準備完了です。どちらの学校の児童も Meet の使い方は慣れている様子

で、先生の指示でスムーズに操作を進めていました。

◇学校の実態に応じて交流の方法を工夫する。

グループごとの交流では、各校 1 人ずつのペアになって、「What ○○ do you like?」「I like ○○.」のやりとりをしました。8 グループが一斉に活動すると、周りの声が気になって集中できない児童も出てきます。それを解消するため、田沼小では 2 つの教室を使い、グループ同士が距離をとって活動できるようにしました。あそ野学園では、各児童がヘッドセットを持っており、それを使うことで周りの声が気にならなくなるため、活動は 1 つの教室で行いました。



田沼小は 2 つの教室に分かれて



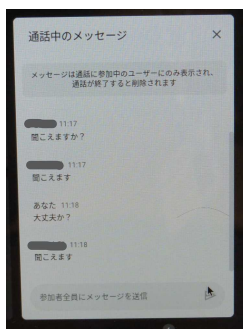
あそ野学園は 1 つの教室で



楽しそうに英語でやりとりする児童たち

◇音声トラブルを児童がチャットで自力解決！

活動の途中、相手の音声途切れてしまったグループがありました。すると、ある児童が Meet 内のチャット機能で相手校の児童と会話を始めました。「聞こえますか?」「聞こえます。」こちらの声が相手に聞こえていることを確認すると、児童たちは再び活動を始めました。児童のスキルが向上していることを実感するとともに、トラブルを自力で解決する姿に感心しました。



実際のチャットの画面



チャットで相手校とやりとりする児童

～教育の力で佐野市を元気に～ 佐野市教育センターは皆さんの「やる気」と「不安」に応えます。